

広島神楽

神楽は、演劇と舞とを非常にドラマチックに組み合わせたもので、鬼や、侍や、一般の百姓が出てきます。その起源は、日本では昔から、力をもつ偉大な神々がすべてを支配していると信じられ、そのため村が繁栄するには多大な感謝を示す必要があるとされたことに由来します。神楽は、鮮やかな衣装と表情豊かな面を着け、毎年秋の収穫時期にそれらの神々に穀物の豊穡を感謝するために演じられます。日本最古の芸能とされる神楽は、日本古来の神道とともに国中に広がり、さまざまな地域には今でもその地ならではの神楽や物語があり、何世紀にもわたってそれらが受け継がれています。

広島は昔から日本で最も神楽が栄えた場所のひとつでした。今日、広島県では約 300 の神楽団が活動しており、各地域にちなんだ舞や物語を演じています。そのなかには敗れた氏族の長たちが復讐に燃える蜘蛛のような鬼と化した話の『土蜘蛛』や、洪水を象徴した八つの頭を持つ大蛇が村の田んぼを破壊すると脅す『八岐大蛇』などがあります。神楽の定期公演は、広島県民文化センターや YMCA 国際文化センターなどの会場で見ることができます。